

2010年度

科目名	生物学B		
担当教員	三浦 和彦		
配当	文 1・人間1	コード	13060
開期	後期	講時	月曜日3限
		単位数	2
授業テーマ	生物と「環境」：生物圏と産業社会との関わりを見る		
目的と概要	みずからの環境条件を激しく変化させてきた人類の現在を理解するために、生物とその環境との40億年ちかくの歴史を振り返る。単細胞生物の誕生に始まり、多細胞生物の多様な分化と、その系統をたどる。これらの舞台である地球システムを生物の視点から眺めることにより、「暮らし」と環境とのダイナミクスを理解し、みずから分析可能になるよう学習することを目標とする。生物Aでは、主として生物圏そのものを、生物Bではそのヒトのかかわりを課題としてテーマを展開する。 評		
成績評価法	通常の講義時の小レポートと小テストで評価する。		
テキスト	コア講義生物学 田村隆明 著 裳華房刊		
参考書	里山の自然 田端 英雄 編著 保育社刊		
履修に当たっての注意・助言	ビデオ、パワーポイントを使用するので、メモの工夫をしてください。		
講義計画			
第1回	システムとしての自然界：生態系とはどういう概念なのだろうか。		
第2回	生命圏における種多様性：生物を集団として捉えれば、どのような存在なのだろうか。		
第3回	系統進化と生態系：進化史において大陸の変動や隕石の落下などの出来事がもった意味は何なのか。		
第4回	ヒトの文明と生態系：火の使用、集落の形成、牧畜農耕などの生態系とのかかわりはどうであるのか。		
第5回	消費者としてのヒト：ヒトが消費しているエネルギーや物質の資源量はどのくらいの規模なのだろうか。		
第6回	ヒトの健康と生態系：いまヒトが抱えている健康問題は、生態学的にはどのように見ることができるのか。		
第7回	生物生産技術としての食：ヒトの栄養摂取は生物学的・生態学的にはどのようなことなのか。		
第8回	生物生産技術としての農：動植物生産においてどのような生物学的課題があるのか。		
第9回	生物生産技術としての医療：健康を支える医療技術にはどのような生物学的課題があるのか。		
第10回	技術社会の生態学的な意味：技術を持ったヒトは生態系の中でどんな特異性を発揮してきたのか。		
第11回	資源・材料・工程・製品：生態系の中で人間の産業活動はどんな側面を持っているのだろうか。		
第12回	流通活動と生態系：生態系の中で人間の物流活動・情報交通はどんな側面を持っているのだろうか。		
第13回	地域社会にとっての自然：身近な自然を地球的規模で考えてみよう。		
第14回	生態系と暮らし：あらためて、もう一度生物社会全体のなかの自分たちの位置を確認してみよう。		
第15回	未来の構造：かけがえのない地球の未来に我々が展望できることは何だろう。		